

No. 2

1979年

同窓会より

— 発行 —

旭川厚生専門学院 同窓会

岡山市紙園地先

TEL. 75-0145

— 編集責任者 —

同窓会々長 守屋 礼子

学院の動向

副学院長

長安 一郎

同窓会だより創刊号にのせた以後の学院の動向についてお知らせします。

再来年（昭和五十六年）は学院創設十周年に当る記念すべき年となります。

本年三月、第七期卒業生百三十八名を社会に送り出して、七百名に近い卒業生が各地で頑張っておられることとなりました。

卒業生の数は

看護科	保育科	
43	28	第1期
55	24	第2期
68	25	第3期
79	16	第4期
88	23	第5期
69	32	第6期
102	36	第7期
504	184	小計
688		合計

そして本年四月には、第九期生百五十五名を迎えて約三百名の学生数となりました。

現在の学生数は

第二看護科	第一看護科	保育科	
62	57	36	1年
58	42	40	2年
120	99	76	小計
295			合計

次に職員についての異動を申し上げますと、保育科へ音楽の津之郷先生と心理学の迫先生を迎えました。看護科へは木内先生を迎えました。学院開設以来学院のために尽力された山田先生が九月から旭川



おもちゃの館

同窓会案内

日時 十一月四日（日）

十一時～十二時

場所 母校二階

視聴覚教室

学院祭案内

日時 十一月三日（土）

十時～十六時

十一月四日（日）

十時～十八時三十分

場所 母校

統一テーマ HANDいんHAND

内容 第一日 シンポジウム・映画 展示他

第二日 ステージ発表・パザール・ツァイヤーストーム・展示他



療育園へ転勤されました。それから教育学と書道の石原先生と事務室の庶務課長岡崎先生が学院を去られ、新しく庶務課長として小出先生を迎えました。それから今回、学院では附帯事

業として半年コースの福祉医療ヘルパー科（定員三十名）を開設することになりました。この科は独居老人や病人、心身障害者（児）など生活上の介護を必要とする弱い立場の人びとのために的確な援助をなし得るよう必要な知識、技能をもった人材を育てることをねらいとしております。

最後に、環境整備については引き続き力を入れております。学院の建物をとりまく青々とした造園の外に、隣地約三千平方メートルを借りて専用のグラウンドとして体育の時間やクラブ活動に活用できるような施設を拡充しました。

七百名の同窓生の皆様、毎年十一月第一日曜日は学院祭の日と決めております。そしてこの日に同窓会の総会を開催することも決定しておるようです。おさそい合せられて多数学院へご参集いただきますようお願いしております。

同窓会の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



卒業そしてその後

看護科第一期生 岡野好子
第二期生 太田こずえ

母校を卒業して、早や六年目、七年目になります。同窓生の皆様、お元気で毎日御活躍の事と思います。私達二人は、卒業後、縁あって、日本一の湖、琵琶湖のある滋賀県の済生会滋賀泉病院に勤務して居ります。二人共、二児の母であり家庭を持ちながらのママさんナースです。家庭と仕事の両立の困難さを噛み合う程味わいながら、毎日の看護業務に励んでいます。私達の勤務している病院は、ベッド数二百五十床程の総合病院で、看護婦養成と、進学コースの看護婦養成の学院を持ち、又、特別養護老人ホームもある片田舎のユニークな病院です。周囲は新幹線、名神高速道路、国道一号線、八号線と交通量の多い場所には位置し、患者さんは交通事故による方が多く、又、近年老人医療の発達からこの病院でも見られる老人患者の増加に伴ない、大変忙しい毎日を送っています。看護界では、継続看護、ブライインマリナーシング等が叫ばれています。私達にはほど遠い言葉の様にさえ感じます。二人共、現在、臨床実

習指導者として、後輩の指導に当たっています。現在の看護教育のあり方、又卒業教育のあり方等、沢山の問題に直面しています。看護は、常に良い人間関係であり、良い人間関係の基で初めて信頼される看護ができるのでは、と痛切に感じさせられます。本院も今年度より、三ヶ年計画で病院の増築計画がなされ、医療看護の充実を図る為、多方面に於て過渡期を迎え、私達の未熟な能力さえも必要とされています。家庭を置き去りにして、仕事の事に奔走し睡眠の為に帰宅する様な日もあり、子供と接する時間も少なく育児も機械的に済ませる事もあり、我々の顔を見て、はっ

「根気・のんき・元氣」と

四年目の私

保育科四期生

井上 由紀子

旭川厚生専門学院を卒業して四年目です。私は今、山口県の徳山市から三〇キロメートル程北に入った所にある、精神薄弱児施設豊野学園で働いています。地図を拡げてみていただければわかりますが、豊野という所は、奥の奥のそのまた山奥にあるのです。就職する前に一度見学に行ったのですが、どんな山奥に入っていくバスの中で一体どこまで行くのだろう、こんな山奥に人が住んでいるのだろうか、と不安に思ったのですが、それでも住めば都、今ではどっぴりと豊

と我に返る事もしばしばです。この様な時、極く普通の平凡な主婦の座にあらがれる事もあります。看護のとりこになり、なかなか看護から離れる事ができず、家族を道連れにする時さえあります。こんな多忙な病院ではありませんが、お互いの力を出し合い良い職場作りを目指しています。片田舎の為なのか、病院は看護婦不足に悩んでいる現状です。後輩の皆さん、同窓生で現在職場を探している方、私達と一緒に苦勞を共に致しませんか？一人でも多く私達の病院へ来て下さる事をお願いしまして、最後に、母校の発展と、同窓生の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

野の空気にそまっております。豊野学園には五十九名の児童がいます。田舎施設養護学校の豊野分校に十六名の児童が行っており、午前中は残り四十三名を五つのクラスに分け、音楽リズム、園工などの学習を、午後、学令児が帰園してからは五十九名を四つのグループに分け、入浴、ロッカー整理など行なっています。午前中の学習時はもちろん、午後の生活指導の際も、いろいろな疑問を持ちながら、そして迷いながらもどうにか頑張っています。『根気・のんき・元氣』というのが、豊野学園の職員信条です。『元氣』という事には自信があるのですが、子供達と接していく中で、ともすれば『根気』『のんき』を忘れそうになってしまいます。自分本位のものさしで子供達を見ている時、子供の立場を忘れてしまいい、こんな事ではいけないと思いががらついている『根気』『のんき』

「根気」を守れなくなる時があるのです。そんな風に自信をなくしかけてしまいう時、いつも思い出すのが、二年間の厚生専門学院での学生生活です。十六名という少人数のクラスだったせいか、これまでの私の学生生活の中で、最も貴重な、忘れる事のできない二年間です。教室は広いのに十六名の机と椅子を並べれば、その四分の一位におさまってしまい、それでも笑い声だけは他のどのクラスにも負けない位よく聞こえるそんなクラスでした。

旭川市内でのアルバイトの事、実習の事、寮生活の事、ピアノのレッスンや修学旅行の事など、今でもまるで昨日の事のように思い出されます。そしてそうやって思い出した「みんなも頑張っているんだ。私も負けないぞ」という気になるのです。これからいろいろな事にぶつかっていくだろうけれど、学院での思い出を支えに頑張っていこうと思います。

「お元氣ですか」

看護科六期生

瀧 繁子



- ① 会費納入の件について
第一期/第四期生の方で会費を納入されていない方は、同窓会事務局へ納入して下さい。会費は終身会費で一人二、〇〇〇円です。
- ② 会費の方で改姓、住所変更をされた方は事務局あるいは同窓会同期役員の方へ直ちにご連絡下さい。学院創立十周年を記念して同窓会会員名簿を作成する資料とします。

旭川児童院での生活(仕事)は、大きな声にはじまり大きな声に終わるといった感じでした。児童院の子ども達と出会ってもう十年になります。当時八才だった子どもは十八才になっています。わずかながらの成長発達、あるいは退行に看護婦としてのようにかゝりあつていくか「看護」という仕事の難しさ、深さを今さらながら嫌やという程思い知らされています。今まで元気に遊んでいた子どもが、急にぐったりしていたり、よかれと思つて行ったことが全く効果がなくむしろ悪い結果をもたらした時など、どうしようもない空しさを味わいながらも、また、子ども達の仕様に笑つたり怒つたりしながら看護婦として何かをしようと思つていました。意志の疎通が困難な子ども達ゆえにより深く深い知識をもつて考え、判断し、実践してゆかなければならない毎日であるこの職場を誇りに思っています。世間一般の云々ところの看護婦さんのように華やかさはなくとも、よりよい看護をと心がけています。

卒業して一年半もたつとはや、みんなの連絡先がわからなくなつたりして淋しい感じがします。在学中にもっといろいろな事を話して合つておけばよかったと悔やまれてなりません。買物に出かけた街角などで突然「ポン」と背中をたたかれ振り返つたところに、友達の顔があつたりするととても嬉しいものです。二年間の学院生活にも各々にそれぞれの思いがあつたはず

です。「お元気ですか。」連絡して下さい。いつの日にか楽しく語り合ひましょう。

私の近況

保育科五期生

浅野 瑞枝

学院を卒業して3年、近く(旭川児童院)に勤務してはいるがなかなか行く機会もなく、先生方また保育科の5期生の皆はどうしておられるのかと思つていました。結婚された人も何人かはおられるよう、なんだか学院時代も遠く遠くになっていくようです。学院生活は仕事と学院との両方で自分の生活を振り返つてみる心のゆとりなどない毎日でしたが、今にして思えばそれはそれで結構楽しい毎日だったように思います。現在の仕事は経験が私の踏み台になってくれているのだと思います。最近やると、子供達の生活の中でくらししている自分を感じることが出来るようになりまし。私は、長い間「してあげている」「何かをさせてあげる」という考えが、自分の中にあり、その考えに基づき仕事をしていたように思います。しかし生活の一部とのかかわりあいではないかと思ひます。オマルでオシッコが出たといつて大喜びをし、その子と一緒に喜んでいけるそれが生活の中に入るといふことだと思ひます。社会に出れば人と人とのかわりあひの中であつては、かなければならぬ自分では、くこうだと思つてもどうにもならない壁は多く「あーあ、やーめた」と両手をあげてしまいたいこ

私の近況報告

看護科一期生

青山 つぎよ

(旧姓奥野)

卒業して六年、この間にいろいろなことがありました。現在二児の母親として病院で働き続けています。病院に来る実習生を見るたび学生の頃を思い出しては、あの頃はよかったなあ。友達は今何をしているか。など無性に恋しくなつたりします。学生の頃の何がよかったのか、それは自由な時間があったこと。今は忙しくまるで時間との闘いのような毎日を送っているのですから。

我家の構成

主人(名古屋市の保健所のケースワーカー)

長女(五才市保育園児)

長男(一才病院の保育所)

私(病院勤務三交代)

子どもを産みあけから保育所に預けるということに抵抗がなかったわけではありませんが、今では集団生活の良さを子どもを通して感じていて、自信をもつて保育所に連れていっています。

私のように核家族で働き続けている人は少ないのではと思ひますが、女性が家庭を持って働き続けるためには、やはり夫の協力なしではやってゆけないと思ひます。

(4頁へつづく)

母校アサカルト

○トレーニングコーナー設置

かねて学生たちから要望のあったトレーニングコーナーが、もうこの四月より開設され、学生たちの余暇利用と体力増強に役かっている。

学院は五十三年度事業の一つとして各種室内運動器具を購入し、旧更衣室あとに設置した。固定自転車、スタイリー、ツイスター等をはじめ十数種類の運動器具は授業の合間や放課後かなり利用されている。今後さらにその種類をふやし、計画的にトレーニングが出来るとのことである。

○図書館の拡充

図書館は学校の心臓部であり、開学以来その充実が図られ、現在は蔵書一〇、〇〇〇冊をはるかにこえているのである。この四月には閲覧室を改造し、学生たちが効果的に活用できるようにして、卒業生の利用もおおいに歓迎することです。皆さんお立ち寄りを!!

○学院十周年記念式典

学院は昭和五十六年には満十年が経過する。昭和四十六年四月開学発達して以来文字通り苦節十年の歩みをつづることになる。十年目を節目に飛躍的な発展を期して盛大な式典が催されるようである。

同窓会としても母校の記念事業に協力し、ほこりうる母校にしていきたいと願っている。



○運動場の整備

学院は本年四月より学院南側の遊休地約一〇〇坪を借用しグラウンドにしている。これまでバレーコートとテニスコートがあったが、運動場としては決まらず、



学生たちはぜひ不便を強いられていたが、これで運動場の悩みは一応解消したことになる。

わが夫も例外なく、ケースワーカーとして忙しい仕事の中を長女の保育園の送迎、私の夜勤時の子どもへの世話、掃除、洗濯、食事の後片付けなど家事を分担してやってくれています。でも、ちょっとしたことではんかをするこもたびたびですが、私の一番の理解者です。それと同じ病院で同じように子どもを持ち働いている友達ら、同じような悩みを持ち、話し合いをしながら働き続けることに励まされています。これからもずっと働きたい。

でもまだまだ子どもも小さく小学校に上がるとなれば学童保育所の問題など考えさせられることはいっぱいですが、〃親の後姿を見て子どもは育つ〃ことを願って頑張りたいと思っています。そして子どもが成長して、親の手から巣立っていく時も容易に親離れ、子離れのできるようないつの日でも自立できる女性でありたいと思っています。

学生学院生活を

ふり返って見て

看護科二期生

鹿村ひとみ

早いもので学院を卒業して六年の月日が過ぎようとし、楽しかった友との語いがつい昨日の事のように思い出されます。子供の頃から看護婦になる事が夢だった私は高校を卒業する時両親にうちあけると、白衣にあこがれる私の氣まぐれるしか受けとってもらえず、大反対にあい、今考えてみれば盛地張りの私にとってそれがかえって看護婦になろうとする氣持をよ

りい、そう強くしたように思いま
す。

續あつて当学院に入學し、その生活をふり返つてみるとおそらく生涯の友になるであらう友人との語りきれない程の想い出が走馬燈のように腦裏を駆け廻ります。思い出せば、在学中に「結婚」という人生最大の出来事を経験し、それほどの勇氣と情熱と決断が自分の中に存在したのか、それとも若さゆゑの事だったのか今考えてみると何かきどしい感じがえします主婦業との両立に何程も挫折し、そうになった私を下から支えてくれた主人と、それを黙認しつゝと見守つてくれた両親、又周囲の人達、クラスメイト等には感謝しております。妊娠二ヶ月の身重の身体で「胎教がいいからお腹の子供はきつと看護婦になるわ。」なんて冗談を言いながらも、苦しかった国家試験の受験勉強も合格発表を見たとき、今迄の苦しさもつわりもどこかへ吹飛んでしまつた感じがえしました。

その時の子供も、はや幼稚園で下の子にも思われ私も今は家の近くの診療所に勤務しています。外来診療ばかりなのでする仕事に限られてしまい、毎日が単純で機械的に動いているだけの様な感じが、ナースとしてもっと幅広い知識と技術をみがかくにはやはり臨床をもつと経験しなければ向上できないという思いと、家庭と仕事をうまく両立させていくためには……と何か複雑な気持ちです。しかし現状に甘んじる事なく、多忙な毎日の中で少しでもゆとりのある人間味ある看護が出来るよう、今迄の自分をかきりみて少しずつ努力を重ね前進し成長してゆきたいと思つております。

振りむいて笑えばそこに笑いが返ってくる。そんなしあわせな日々は過ぎてしまった。右をむいても左をむいても答えの返ってくる日々の生活は、しあわせ過ぎて心苦しくなる程のものだったと記憶している。

なのにもともと簡単に左右に別れを告げて（告げねば前進できないこの世の中はなんて厳しいのでしょう）又、会えるとも思っていたのでしょいか。私、車をとばして帰ってきた卒業の日。

「ホラッ、あの解剖の先生あの講義の時なんて言ってたっけ？」

と聞いても答へて返ってこない人々。それを思うと人との出会いなどほしくないと思いつつも又、新しい人々との出会いを大切にしたいとも思う欲張り人間一私。

皆んな色々な職場につき日々が大変だということを耳にする。ああこれが私達の仕事なんだなあとその渦の中に自分もいることを安堵する。

卒業してひとつ残念に思う。文化祭において何も残さなかったこ

とを。なぜできないか、ならどうすればできるかそれを考えなかつたあの頃。学院でノートした事を纏いて考え、実践してゆく時、今がその時。

お互いにくじけず頑張りました。

保 育 科
 五十三年度卒業生
 石 崎 教 子

決意も新たに
 学院を卒業して、五ヶ月が過ぎました。他の人にとっては、早いものでと言うところでしょうが、私は何故かまだ五ヶ月しか立っていない、という心境です。もうずっと以前に学院生活を終えたような気持ちです。

バイトをしていた児童院に就職し、バイトの頃の持統ではなく新たな気持ちでがんばっています。四月頃はバイトのころのなれと新職員という事で、とまどいもずいぶんありました。就職してやはり自分の保母としての専門性、技術の乏しさを痛切に感じています。子供たちこうしてあげられないのにしかし、私にはできないことが、非常に多くあるのです。学院のころ学んだことだけでなく、それを基礎にいろいろな勉強しないといけないとつくづく感じています。

今後もっと積極的に子供達にかたりかけ子供たちと共感でき信頼のもてる保母職員でありたいと思う。それには自分自身をみがきよう。一層自分を成長させていきたい、と思っています。

編集後記

実りの秋となりました。皆様にはお変わりございませんかお伺い致します。皆様の御協力により同窓

学院を卒業して、五ヶ月が過ぎました。他の人にとっては、早いものでと言うところでしょうが、私は何故かまだ五ヶ月しか立っていない、という心境です。もうずっと以前に学院生活を終えたような気持ちです。

バイトをしていた児童院に就職し、バイトの頃の持統ではなく新たな気持ちでがんばっています。四月頃はバイトのころのなれと新職員という事で、とまどいもずいぶんありました。就職してやはり自分の保母としての専門性、技術の乏しさを痛切に感じていました。子供たちこうしてあげればいいのかしかし、私にはできないことが、非常に多くあるのです。学院のころ学んだことだけでなく、それを基礎にしいろいろ勉強しないといけないといつくづく感じていました。

今後もっと積極的に子供達にかたりかけ子供たちと共に感で信頼のもてる保母職員でありたいと思う。それには自分自身をみがきより一層自分を成長させていきたいと思っています。

~~~~~

**編集後記**



実りの秋となりました。皆様にお変わりございませんかお伺い致します。皆様の御協力により同窓

今後もっと積極的に子供達にかたりかけ子供たちと共に感で信頼のもてる保母職員でありたいと思う。それには自分自身をみがきより一層自分を成長させていきたい、と思っています。

## 編集後記



同窓会役員

|       |                |                          |                                     |                                    |                |                         |     |                |                            |                 |                |                  |            |
|-------|----------------|--------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|----------------|-------------------------|-----|----------------|----------------------------|-----------------|----------------|------------------|------------|
| 7     | 6              | 5                        | 4                                   | 3                                  | 2              | 1 期                     | 保育科 | 幹事             | 書記<br>藤本智恵子・佐伯玉代<br>(旧姓藤川) | 監事<br>竹井千恵・田中幸子 | 會計<br>森定信子・藤繁子 | 副會長<br>人見壽太・野上芳江 | 會長<br>守屋礼子 |
| 石崎 數子 | 大熊十四恵<br>小郷 雅子 | 徳永 栄子<br>中西みどり           | 竹井 千恵<br>西林多喜枝                      | 伊藤 君子<br>村木 充子                     | 高橋 敏子<br>平岡 愛子 | 翻慶喜久子<br>平岡 文恵          |     |                |                            |                 |                |                  |            |
| 7     | 6              | 5                        | 4                                   | 3                                  | 2              | 1 期                     | 看護科 |                |                            |                 |                |                  |            |
| 小椋 里枝 | 藤越 幸子<br>藤岡 和子 | A人見 寿太<br>B房崎奈緒美<br>藤 繁子 | A大月 生子<br>B尾関 智子<br>B伊丹富貴子<br>三尾 昭子 | A佐伯 玉代<br>高岡 米子<br>B徳永 一子<br>那須美代子 | 梶谷 光美<br>藤井 鶴代 | 近藤 洋子<br>山本 基子<br>宮西久美子 |     | 堀内 綱江<br>田中 幸子 |                            |                 |                |                  |            |